

おんじゅく

10

昭和51年10月

第157号

千葉県御宿町役場

子どもに混って、奮闘するおかあさんの玉入れ

16億円を超えた予算



一般会計の補正予算案等を審議する定例町議会

●災害復旧に四千五百万円

●漁港などに四千二百万円

●道路改良に二千万円

一億五千万円を追加

九月定例町議会は、九月二十日午前十時から開かれ、一般会計の補正予算案、五十年度高水害事業会計の決算承認などについて質疑が交されました。おもな議案の内容については次のとおりです。

建設事業に町税千六百万円使う

議案第二号 昭和五十一年度御

宿町一般会計補正予算(案) 第一号、補正総額一億五千四百九十七万円を追加し、予算総額は十六億五千四百七十七万円となりました。

開発会計からの繰入金千二百六十八万二千元、繰越金五千万円、

災害復旧に予算の三分の一を

追加補正財源は、町税、地方交付税、国庫支出金、県支出金、繰入金、繰越金、諸収入がおもなものです。歳出面では、総務費、民生費、衛生費、農林水産業費、土木費、消防費、教育費、災害復旧費、公債費など。さらに内容についてふれてみると歳入では、個人町民税五百万円。固定資産税七百万円、土地保有税四百五十万円が税で、交付税六百万円。

災害復旧費 道路橋梁災害復旧費千十五万円のうち、六百五十万円が国からの補助で行われ、工事箇所四路線が復旧されます。河川災害は二千四百四十四万五千円で国からの補助は千四百七十四万六千元、工事箇所五カ所二千三百万円、職員給与には百六万円などです。

築磯事業五百二十二万五千円などは国、県からの補助金を町予算を上積み計上して、それぞれの漁協へ補助金として支出するものです。集団操業施設は漁船にレーダーをつけ、遠海漁の集団操業を行うもので県の補助金をそのまま組合へ補助することになっています。また築磯事業は三百二十八個のコンクリートブロックを投入する事業です。

災害復旧費国庫負担金、土木施設災害負担金二千二十四万円。農林業災害復旧国庫補助金三百五十万円、岩和田漁港修築補助金五百万円。

農地三箇所へ八百万円。農林業施設は七十七万三千円となっており、これら四つの科目ごとの財源内訳は、国からの補助は二千四百七十七万二千円で残り二千五百六千円は町税などの一般財源が使われています。

岩和田漁港修築事業は、補助対象事業費が一億一千万円と一千万円増額され、それに伴う国、県補助金七百五十九万五千円となります。五十一年度の事業費一億一千万円に対し、国の補助金五千五百万円、県補助金三千二十五万円、

県からの補助金は、漁港施設等の補助金がおもで、岩和田漁港修築補助金二百五十九万円、御宿漁港給油施設二百万円、岩和田漁協荷捌所二千二百五十万円、築磯事業四百七十万円、漁船集団操業施設百十九万円。

農林水産業費 打越線林道改良事業に林道改良県補助金五十万円で二百五十万円で改良されます。御宿漁協給油施設百万円、岩和田漁協荷捌所三千三百七十五万円

和田漁協とで折半負担します。その他のおもだった事業はいずれも一般財源を充当して行われます。

消防団員退職報償金二百三十三万円。以上の財源が歳出面でどのように充当されているかについてふれてみましょう。

歳出補正額と予算現額 (単位千円)

歳出科目	補正額	予算現額	補正額のおもな事業等
議会費	150	26,614	
総務費	9,133	168,804	グラウンド用地測量 400 退職金掛金 賃金 900 3,432
民生費	3,778	157,248	児童館、付帯工事 2,380 保育所 補修
衛生費	5,014	729,644	じん芥焼却炉改良 4,000 環境衛生組合負担金 734
農林水産費	52,665	248,659	林道改良、築磯事業、漁港修築、給油施設、漁協荷捌所
土木費	23,885	113,924	道路整備道路維持補修 県事業に對 分筆登記委託測量委託 する負担金
消防費	4,564	23,570	団員退職金 救急業務負担金
教育費	8,437	81,399	岩小サッシ、教委会への負担金
災害復旧費	44,828	44,828	公共土木、農林業農地
公債費	2,516	38,919	長期債の利子償還金
計	154,970	1,654,170	

議案第一号 昭和五十年年度水道事業会計歳入歳出決算の認定につ

いて

水道事業決算のうち、五十年年度

ごみ焼却炉を補強

じん芥焼却炉改修工事、町道整 備事業、岩和田小学校サッシ取付

工事、道路補修や原材料、新町児 童館付帯工事などが主なもの です。

水道会計決算を承認(五カ年計画の三年目)

水道事業報告書を抜すいし、お知 らせします。

概況

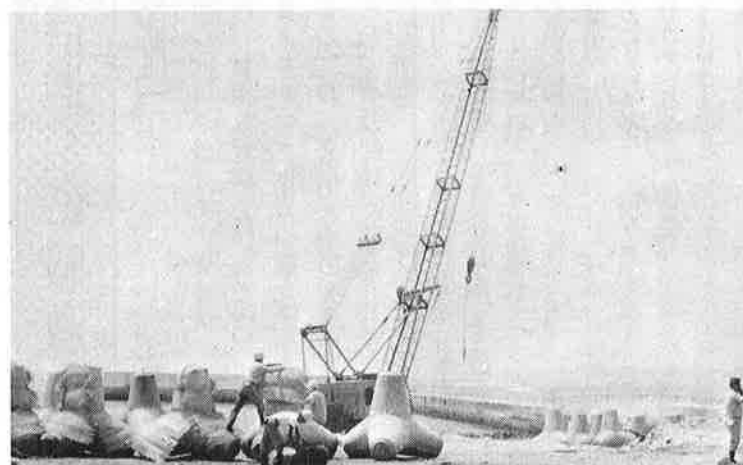
水道事業も三年目を迎え、本年 は築堤工、仮排水路工、配水管工 に着手し、五十二年十月の給水開 始を目標に鋭意施行中です。なお おもな建設工事はずぎのとおり。

水源施設

築堤工事、仮排水路工事及び付 帯工事を一億八千四百五十三万九



災害復旧には予算の3分の1の1,115万円があてられます



岩和田漁港の改修費も増額され急ピッチで改修されます

千円で行い、築堤工事の一部を除 き三月三十一日までに完了しまし た。また、築堤工事の繰越額は、 一億一千八百三十七万九千円で八 月三十一日竣工の予定です。

配水施設

口径二五〇ミリ〜七五ミリ、延 長一万六千九百二十一メートルの 埋設を完了しました。

新町児童館を建設

議案第三号 御宿町立新町児童 館新築工事に関する契約の締結に

ついて

契約の相手方 御宿町久保 有限会社岩瀬建設

契約金額 二千四百四十八万円

シコ万歳

の旅



旅の安全を 神に祈願

機内のスコッチは免税のため、安く、うまい。かわいらしいミニチュアボトルが、もう何本かあった。頭はジーンとしびれているが目だけが妙にさめている。忙しい一日だった。家族に見送られ、春日神社に参拝し、資料館で町長さん、商工会長さん、OBや友人の方々の激励を受け、台風十七号に追われるように雲の多い羽田を発

身にあまなる待遇に感激

御宿一アカプルコ友好親善民間使節団一行十二名は、十一日間の日程でメキシコ、アカプルコ、ロサンゼルスをまわってきた。民間使節団として、最大級の待遇を受け、貴重な経験を積んだ十二人。古代文明と近代的文化の同居するメキシコ、世界の観光地アカプルコ、アメリカ資本の偉大さなどその施設、文化、風俗、人間性を自らの目でみ、はだで感じとってきた、その記録である。

アカプルコ市長さん到手渡された岩井町長からの親書

つたのがPANAM 008便、午後四時十分の定刻だった。いまは九時を少し回っている。夕食もすみ、スクリーンでは外国のミュージカル映画が踊っている。翼の上は抜けるような星空だ。

道路にみる米国の偉大さ

9月8日

やこしい手続きの末やっと開放された。

サンフランシスコを左下にみて西海岸の沿岸にそって南下する。午前十時ロサンゼルス空港に着く足がちよつとふらつく感じ。それもそのはず日本ではまだ午前三時の真夜中だ。入国管理、税関とや

アメリカの太陽はやけにまぶしい。荷物を全部脇腹にのみこむ背の高いバスで市内のホテルに向かう道路はさすがに素晴らしい。フリーウェイをノンストップでぶつとばす。一時間程でメイフラワーホ

そういえば伝説のかぐや姫が下界に別れを告げて、月の世界に帰ったのが今夜だった。日付変更線を通過する。時計を七時間進めよう、するともう午前四時半だ。もうすぐ翼の下が紅く染ってくるはずだ。頭は相変わらずしびれているが、目だけは他人のようにいつまでも自分になじんでこない。

テル前に着く。日本人がやけに多いホテルだ。十二階の部屋に分散、自由行動、さつそくロスの銀座通りへ飛び出す。最初にいった時計屋はお城の内

部のような重厚さ、ユダヤの主人は創業八十五年だと得意顔。つきに見たデパートのお粗末なこと。広い売場に商品チラホラ、店員チラホラ、販売意欲はまるでゼロ。電話が鳴っても知らん顔。エレベーターは明治初期、これが銀座のド真中、それもそのはずアメリカは一流品は専門店、二流品ならスーパーで、あとの雑多はデパートで、何はともあれ驚いた。夜はハリウッドを二時間ほど散歩する。あすはいよいよアカプルコだ。

ビバー・メヒコ＝メキ

御宿 ↔ アカプルコ友好親善

9月9日

八時起床、空港で朝食、ウエスタン航空にて十一時四十五分に発

つ。アカプルコに近づくにつれて茶色だった山はだが濃い緑に変わってきた。ロスから三時間半、空港にはわれわれの今後の運命をゆ



メキシコ独立記念式典に参加しメヒコたちから名誉なメリケン粉の洗礼をうける

だねる東信行先生とガイドのトミ一永松さんが税関のさくを越えてタラップまで迎えにきてくれた。市長命令でややこしい手続きは一切なし、税関もフリーパス、早速バスでホテルに向かう。案外涼しかった。

歓楽郷—アカプルコ

ロスからくるとさすがに亜熱帯の暑さだ。しかし汗をかいても少しもべつつかない。抜けるような快晴。理想的な気候、気温は二十七度を中心に一年間で上下二度の差しかない。人口二十四万人。まばゆい太陽

まさに「太陽の国」青くどこまでも澄んだ海広がる砂浜はチリ一つない。海に迫る山容、咲き乱れる熱帯植物、爽しさとうれしさが大

地からわきあがる感じ。

この楽園も三十年前にはまだ野猿がとびまわっていた。四百五十年も以前から東洋貿易の主要な港として栄え、三百五十八年前には伊達政宗のローマ使節として支倉常長一行が上陸した場所であり、岩和田沖で救助されたロドリゴ総督一行が送り届けられた場所でも

ある。また案内知られていないものに水上スキーとパラセーリング（パラシュートをモーターボートでひっぱり空中散歩する）もこのアカプルコが発祥の地だ。

F I E S T A ・ T O R T U G

（亀のお祭り）ホテルに着く。玄関前で真赤なスーツのボーイが「コンニチワ」と迎えてくれた。玄関を抜けると吹抜けの中庭に円型屋根のステージ、いす、テーブル、正面に総ガラスの派手なエレベーター二基、中庭を中心にコの字型に部屋がある。どの部屋を見上げてても廊下の手すりから真赤な熱帯植物がぶらさがっている。

部屋割がきまると、まっぴらしたと全員が派手なアロハに素足でとびだす。初泳ぎする者、こわごととパラセーリングを試みる者、泥棒市場をひやかす者、初めて外国へきた実感がわく。ひとふろあびた後の夕食がなんとも忘れられない。あすの市長さんとのお見がこの旅のハイライトならさしずめ今夜は前夜祭か。ホテル側の配慮か中央ステージのまん前にわれわれのテーブルが用意されていた。はじけるようなマリアッチのリズムがもうすでに始まっている。最高級のテキーラで先ずは「サル



15~16世紀の町並みがそのまま残されている銀の町タスコ

会場の人たちも一緒に唄う。唄い終わるといつせいにローソクを差し出す。とても一息で消える数ではない、がんばっていたが半分が

やつとだった。井上君のスキヤキソングに合せて陽気なセニョールが桜の造枝をもち日本的にユーモラスに踊って

みせる。まったくゆかいな人達だ。楽しんでとるけそうな夜はいつまでも更けなかった。

劇的、市庁舎の歓迎式

9月10日

この旅行のハイライトアカプルコ市庁舎訪問の日だ。メロン、パイヤ、マンゴ、グレープフルーツに牛乳、目玉焼きの朝食がすむと全員ちよつと緊張気味にネクタイを結ぶ。約束の時間までちよつとあるのでアカプルコ、コンベンションホールを見学、国際会議の開かれる場所だけにさすがに立派な建物だ。

市長さんだった。つぎの方は市長夫人かと思つたらなんと助役さん、つぎもご婦人の収入役さん、最後のガッチリした方が議長さんだった。

行きたい。という二ページにわたる返書だった。つぎにわれわれ一人、一人の名前の人った赤いビロードばりの額に手書きの市の紋章を入れたペナントが用意された。これには名前の中に「市賓として待遇します。

テオティワカン大ホールをはじめ近代的な諸設備を完備した数々の会議室、展示場、劇場など美人の職員が案内してくれた。バスで十分程で市庁舎に着く。入口の銃を持った警備兵もニコニコと迎えてくれる。奥まった一室に案内され入った瞬間待ちかまえていた新聞記者のフラッシュの雨最初に握手して迎えてくれたのが

つぎに握手をして席につく、最初に秘書官が私達の待遇について説明、東先生が通訳してくれる。それによると、私たち一行を心から歓迎し市賓として待遇し何人からも危害を加えられないことを保証し、滞在中はなんの不便もかけない。ということが公式文書録に記入され、市長がサインをする。つぎに岩井町長のメッセージが公表され、スペイン語に訳されて新聞記者に説明される。そして市長からの返事の説明、主旨は三百年前の史実にふれ大いに感謝す。御宿町民の慈悲と勇氣ある行動をたたえ、御宿町の繁栄を祈り今後、御宿とアカプルコとが姉妹港としてのきずなを一段と強めて

あなたが日本、メキシコの親善につくされたことを感謝します」との文字が入り、プレジデント、アカプルコの上に市長が一枚づつサインをして各々に握手をしながら手渡された。その他に市の紋章入りの純銀のカップもプレゼントされた。さて今度はこちらからのプレゼントの番だ。まず堺さんの作による押絵羽子板、通訳の東先生もこれには説明に困っておられたようだがジャパニーズバトミントンでOK。大きなガラスケースを心配しながら持歩いてきたが、こんなに喜ばれると苦労のかけがあつた。

ー(乾盃)心配していたメキシコ料理もなかなか好評、飲むほどにバンドのリズムにすっかり乗ってしまった。バンドマスターの指名で三上君が原語で唄ったシェトリンドは大好評。全員がひととなっここ、ここで、団長は、生涯忘れるこ

とのできない素晴らしい誕生日の儀式を受けた(今夜が誕生日ではなかったが)大きなケーキを先頭に着飾った美女達が一列に並んで手に手にローソクをもって入ってくる。ケーキが置かれる、とどろりととりかこんで足を踏みならしながらハッピーバースデーを唄う。

最初に握手して迎えてくれたのが

つぎに握手をして席につく、最初に秘書官が私達の待遇について説明、東先生が通訳してくれる。それによると、私たち一行を心から歓迎し市賓として待遇し何人からも危害を加えられないことを保証し、滞在中はなんの不便もかけない。ということが公式文書録に記入され、市長がサインをする。つぎに岩井町長のメッセージが公表され、スペイン語に訳されて新聞記者に説明される。そして市長からの返事の説明、主旨は三百年前の史実にふれ大いに感謝す。御宿町民の慈悲と勇氣ある行動をたたえ、御宿町の繁栄を祈り今後、御宿とアカプルコとが姉妹港としてのきずなを一段と強めて

つぎにわれわれ一人、一人の名前の人った赤いビロードばりの額に手書きの市の紋章を入れたペナントが用意された。これには名前の中に「市賓として待遇します。

つぎは大きな鯉のぼり。東先生が日本の風習を説明、助役、収入役の両夫人は特に目を輝かせていた。新聞記者にも小さな鯉のぼりを一本ずつプレゼント、日本文字でサインをしてくれとせがまれる。つぎは五倫文庫からの大多喜城と記念塔をあしらった立派な額、有名な岩瀬さんの海女の写真そのつどフラッシュが光る。各学校からお預りした児童絵画を手渡し、記念帳にサインをして交歓会は終わる。四十分の予定だった会見時間が二時間近くもかかる。

最後に整理してお礼のあいさつをしてお別れした。市長は出口まできて握手をし、いつまでも名残りを惜しんでくれた。私たちの胸に大きな感激が走り、市長の手のぬくもりが全身を熱くした。不思議な気がする。

未知の異国人同志が風俗習慣、言葉の障害を乗り越えてこんなにも親しくふれあえるものなのか、思えば三百六十年もの昔、あの封建下のもとで初めてみる異国人を命がけで救助した岩和田の祖先達一歩まちがえば自分達が罪人になりかねない時代のなかで感じ合った人間愛はどんなに大きくどんなに感動的だったことだろう。しみ



町から持っていったみやげ品

じみと偉大な祖先の勇気を痛感した。小心で意地悪で、いがみ合い傷つけあうことを身上としている人がもしいたならば、この陽気な

国にご案内したい。きつと瞬時にして愚かさを悟るだろう。

夜はムードのあるステキキハウスで夕食の後、ラ・ケブラダの「死

9月11日

絵のようなタスコの町

もつともつと滞在していたアカプルコに別れを告げて、タスコ

エルナバカを経てメキシコシテイーに旅立つ。四百五十キロ、六時間のバス旅行、海拔二千メートルを越えると松とサボテンが現われる。それからうへは電柱のよう

なサボテンの林だ。大きなウチワサボテンも点在する。道々大トカゲを売る少年たちにあう。

このトカゲは大変な珍味らしい。マンゴー畑やオレンジ畑、どこまでも続くとうもろこしの畑を通りすぎて、やがて石の多い山が目に入ってくるあたりからタスコの町並みがみえてくる。銀鉱山の山は

のダイビング」を見る。某新聞社が最高の席を用意してくれた。すべての照明が消され、一筋のスポットの中、岩壁をよじ登って行く若者一人、やがて頂上にたどりついた若者は洞くつの神に敬けんな祈りを捧げ両手にたいまつをかざしきつ立する五十メートルの崖の頂から鋭い岩が顔をのぞかせる入江めざして身を躍らせる。波が押寄せて十分に水位があがった瞬間にうまく着水のダイビングを合せるといふ命がけのショーだ。

帰りがけに珍しくチラツと小雨があつた。最後にちよつとオツなショーをみておとなしく圧巻の一日を終わった。

だを見せる山間に町は山の斜面に広がっている。国定コロニアル都市として厳しい建築制限のもとに白壁と赤茶色のレンガが美しい対比をみせる。

ハカラランダの花と中央にひときわ高くそびえる淡紅色のサンタプリスカ教会、銀鉱石を敷きつめた細く入りくんだ石畳の小路、スベ

イン統治時代の面影をそのまま残し、両側に連なる赤屋根の家々、十六世紀そのままのたたずまい。これが銀の町タスコだ。人口一万五千五百人海拔六百七十メートル四百五十年前にスペイン人に征服されてから銀脈が発見され、それ以後ここでとれる銀とインディオの手先の器用さが相まって、ますます発展し、きょうまで銀製品と観光が中心になっている。

メキシコは世界一の銀産国だがなかでもこのタスコが有名だ。市内を一望するレストランで、七面鳥を中心にした豪華なメキシコ料理で昼食をとる。さつそく銀細工のおみやげを買いたり、市の中央のサンプリスカ教会を見学する。銀山王、ホセ・ボルダが「神はボルダに与え、ボルダは神に捧げる」と有名な家訓のもとに寄進したバロック建築の代表的な建物、内部の祭壇は金をふんだんに使った荘麗なもの。絵のようなタスコの街を後にクエルナバカに向かう。

アカプルコが常夏の国なら、ここは常春の国だろう。鮮かな色合いの南国の花や熱帯樹に覆われた市内には、メキシコやアメリカの金持達が構える豪華な別荘が点在する。自家用プールはもとより、



ティオティワカンのピラミッドを登り古代宗教都市の偉大さを知る

自家用のゴルフ場を持っている人もいる。市の中央にあるカテドラル寺院を見学する。メキシコでも最も古い歴史をもつ教会で要塞としての機能も持つ古風な外観、三百七十年程以前に上塗りの石灰層の下から発見された「日本二六聖人殉教の壁画」がある。

これは豊臣秀吉のキリシタン迫害の犠牲となつて、一五九六年長崎で処刑され、のちローマ法王に

より聖人の位に列せられた日本人信徒と外国人宣教師二十六名の殉教を描いたもので、中にはメキシコ人宣教師も含まれていた。壁画中央部に「皇帝太閤さまが殉教を命じて……」というスペイン文字がはつきりと読み取れる。

ここからメキシコシティーまで一時間程の道のりだ。途中三千三百メートルの高所を通る。メキシコシティーでは樹木の一本、一本

に全部印がつけられて都に管理されている。たとえ枯れても勝手に切ることは許されない。政府の役人が調査して政府の手で始末される。一本切ると若い苗木を必ず一本植えることが義務づけられている。その最高責任者が東先生だ。

土曜日の夕方のせいか都内は案外静かだった。どのビルにも、どの通りにも四日後に迫ったメキシコ最大の行事、独立記念日の派手

メキシコの歴史をさぐる

9月12日

メキシコシティー、メキシコ合衆国の首都。人口八百五十万人。海拔二千二百四十一メートル(富士山の五合目と同じ)北アメリカ

最古の歴史をもち政治、経済、文化、教育の中心地。空気が稀薄のためかとても疲れやすい。少し歩いて立止ると目まいがする。午前中国立人類学博物館を見学する。

人類学の概説から始まり、文化圏の概観、各種族の区分、特徴、等々考古学遺品が豊富に展示され目でみる考古学教室だ。ちよつとここでメキシコの歴史を拾い出してみる。

な飾りつけがされていた。停電の所もある。これは電飾看板(お祭り用の)の工事中とのこと。お祭りのためならどんな通りでもどんなホテルでも平気で停電にして工事を行う。やはりメキシコらしい。アカプルコからきたせいとか少々寒い。外とうを着ている人さえいる。夕やみが迫るころこれから五泊するアンパサダーホテルに着く。

メキシコシティーの歴史はまず流浪の民アテスカ族から始まる。神の予言した約束の地、すなわち「サボテンの上で蛇をくわえている鷲のいる地」をここに見出し都を築き定着した。トルテカ族をはじめとする先進文化をたちまちのうちに吸収消化し、持ち前の軍事的能力を發揮して中央高原一帯に古代メキシコ最強の帝国を築き上げる。一五一九年スペイン人コル

テスが金銀を求めわずか五百五十名の兵を率いてこの中央高原に到達したころ、アステカ帝国は繁栄の絶頂にあった。

この当時のアステカ帝国は四方が湖に囲まれた孤島だった。湖上の美都にスペイン兵は驚嘆した。三十万の住民を抱えたこの都市は夢のように美しく、巨大な塔やピラミッドが水中からそびえ立ち、建物はすべて石造りであった。二年後コルテスはアステカ帝国を征服すると、その文化遺産を徹底的に破壊しその石材をもって湖を埋めつくし、新たにスペイン風の植民都市を築きあげる。現在でも地盤が湖だったために、ほとんどのビルが傾いている。ビルとビルの頭が完全にくっついていて建物もあるが、メキシコ人は平気でその中で生活している。のんきなのか無神経なのかどうもわからない。チャプルベック公園は日曜日のためが大勢の人でにぎわっていた。派手な衣裳を着飾ったインディオたちがお祭りの練習をしている。恋人たちは平然と抱擁しあう。木の枝に風船をたくさんぶらさげて子供の誕生パーティーをする家族だれもが自分の楽しみに没頭している。

昼食は日曇会館で和食だった。久しぶりの和食に銚子一本千円の酒でカンバイ。午後はいよいよ闘牛だ。スペイン系の人たちはなぜあんなものに熱中するのかと思っていたが実際に目の前でもとも

のすごい迫力。

まずトロ(闘牛)のお目見え、ファンファーレが高らかになり響くと黒くたくましい雄牛が円型リングに躍りでる。放たれる直前に背中赤い布のついたナイフを突き刺されたことと、いきなり明るみにでた驚きとで荒れ狂って突進し猛然と塀にぶちあたる観衆がトカの勇猛さをたんのうしたころピカドール(騎馬闘牛)の登場、目隠しをして身体をマットで包んだ

馬にまたがり右手に長棒をかかえてトロを挑発、トロは馬の脇腹に低く突つ込んでくる。

その猛牛の肩先深く槍を突きさす。瞬間鮮血が吹きだす。つぎはバンデリー口(銛打士)の番になる。派手な二本の花銛を手に爪先に立ちでトロに近づく。流血で多分に勢をそがれながらもトロは再び頭を低くして突進して来る。その瞬間左に身をかわしてトロの肩に二本の銛を打ちこむ。銛は二本ず

つ三回、計六本が打たれる。

最後に登場するのがマタドール(正闘牛士)おなじみの派手な衣装に赤いマントでトロの猛突をかわす。場内から「オーレ」の歓声があがる。この時、牛に突きとばされたり、踏まれたりのマタドールもあつたが……。最後の力をふりしぼって突進して来る瞬間にマタドールは右手に剣をかまえ近寄りざま後頭部から心臓めがけて鋭い一撃をあびせる。口から血をは

いて「ヨロヨロ」してトロの巨体がリングに沈む。マタドールはその場でトロの耳をもらい暗々と場内を一周する。客席から花束がいくつも投げ込まれる。

このショーを四回も見たが、さすがの残酷さに前席にいた日本人観光客の青年は一回目で失神してダウン。同志の「君も二回目ごろから帰ろう帰ろうの連発、最後には「君たちには動物愛護の精神がないのか」とえらい剣幕。

袋にプレゼントを入れて配つてくれた。われわれの贈り物は大きな鯉のほり一對、奥さんはこの秋七人目のペビーの誕生を前に少々苦しそう。東先生にお腹のペビーが丈夫に育つよう鯉のほりを贈りますと説明してもらうと、大喜びでご主人に「チュウ」とても大勢の子持ちには見えない若くて美人の奥さん。

今夜は全員ネクタイをつけて行ったのでちよつときゆうくつ。若い夫婦が四組もいるのでたまらない。所かまわずチュウの連続、目のやり場に困る。実にスマートに自然にやっている。

メキシコ人家庭の生活をみる

9月13日

だけだ。

やはり空気のうすいせいだろう。かみんなの動作がどうも緩慢だ。調子が狂っている感じ、下痢をする者、いまだに便秘で苦しんでいる者、食欲ゼロの者、がむしやらになんでも食べる者、このへんから個人差が出てくる。それほど深酒をしたわけではないが、酒の利きがやけに早く、さめが遅い、特に酒を飲んだ後は苦しい。思いきり空気を吸い込んでも半分くらいしか肺に届かない、水からあげた鯉のようにバクバクと口を動かす

そのためふだんはいびきをかかない人でも豪傑のような大いびきとにかくきょうも予定通り行動しよう。午前中は大学都市の見学だ。七平方キロの広大な敷地に八十以上の近代建築が並び、一万人の学生が恵まれた環境で学んでいる。建物はいずれもメキシコの著名な芸術家が、建築、壁画、彫刻などの総合的な造型に力をついた最新なもの。特に中央図書館の四面にメキシコの古代、中世の歴史を描いたモザイク壁画は印象的だ。すぐ道路の向う側には十万人以上

の観客を収容した巨大なオリンピックスタジアムがあり、テイエゴ、リベラの立体壁画が外壁を飾っている。無精にのどがかわく。校内の売店でジュースを飲む。目の前で新鮮なオレンジを二つ切りにして絞り機で絞ってくれる。大きなコップにいっぱいでも最後まで飲みきれない。これで二ペソだ(一ペソは十五円位)。総長室にてスライドによる校内案内、総長に御宿の海女の絵を贈る。御宿がまた広くなつた。

午後からショッピング。昨夜、立派なのでなぜかホツとする。話しとは明後日の独立記念日の大統領招待に關してだった。日本大使館はわれわれの保証書をメキシコ政府あてに提出しなければならぬ。そのための調査だった。身分団体の性格、旅行目的など説明し簡単に身分保証を得る。夜は東先生の友人の新聞記者氏宅のホームパーティーに招待された。

日本では、子どもの六、七人も産んだ夫婦なんて、そろそろおたがいにあきがくるころだろうに、メキシコの男性はガマン強いのかそれとも本質的に好きなのか、ひまさえあれば肩から首にチュウ。テキーラ、ワイル、ウイスキーと飲物は豊富、料理も食べきれないほどある。若いカップルがギターを弾きながら唄ってくれた、声量もあり、呼吸もさすがにピツタリ加藤長さんの司会で爆笑また爆笑メキシコ家庭の明るさ暖かさを味わいほのぼのとした気分でおいました。

ピラミッドを見学

9月14日

テイオティワカンのピラミッドに行く途中で、中央政府（国立宮殿）を見学する。当初コルテスが宮殿として建てた城塞ふうの建物で、大統領の國務室もこの中にある。あすはここに招待されるわけだ。内部は独立記念式典の準備で大変だった。正面階段やロビーに描かれた大壁画は、文字の読めない人にもわかるようにメキシコの先住民の歴史からスペイン人の征服、革命を経てメキシコの未来図までも描いてある。

外の大広場ではあす使う大きなひな段にきょうペンキをぬっている。いかにもメキシコだ。つぎは三文化広場、アステカのピラミッドの上にスペイン植民地時代の寺院が建てられ、その隣りに近代的な高層ビルが建っている。このピラミッドは、つい最近、市の職員宿舎建設中に偶然発見されたものだ。

に位置し、中央高原最大の古代宗教都市遺跡、有名な太陽と月のピラミッドをはじめ、多くの建築物が「死者の道」をはさんで整然と並び壮大な計画都市を作っている。テイオティワカンの最盛期はいまから千八百年も前で、そのころの人口は十万人と推定されている。アステカ族が流浪の果てにメキシコ盆地にやってくるのはそれから七百年も後のことだ。

9月15日

花の園で楽しい舟遊び

ソチミルコと独立記念日。午前中ソチミルコにて舟遊び。ソチミルコはアステカ語で「花の園」という。かつてインディオが水中に筏を浮かべその上に土を盛り花や野菜を栽培した。

その植物の木の根が湖底に達し人工の島を作る。これがアステカ族の農地作りの知恵だった。ソチミルコはその名残り、花で飾った色とりどりの小舟が無数に浮かび

彼等はこの謎の瘴墟の壮嚴さに尊敬し、ここを「神々の都」すなわち「テイオティワカン」と名付ける。太陽のピラミッドはなかでも最大のもので、高さ六十五メートル、底面の一辺が二百二十五メートル、容積百万立方メートル、一億万個のれんがを積んだものと算出され、その上に火山岩の破片を並べて粘土と石灰で固めたもの。平坦な頂上は、かつて小さなワラぶきの神殿が建っていた所で、エジプトのピラミッドとはちがって内部に石室や墳墓の類はない。全

ポプラに似た林の中の水路を行くと、ビールやジュースを積んだ小舟、マリアッチの楽団を乗せた小舟、民芸品売りの小舟。花をいっぱい積んだ花売り娘の小舟とつぎからつぎへと舟をよせてくる。ビールを飲みながら特注の幕の内弁当をひろげ、のんびりと舟頭の竿にまかせた。

今夜は東先生のお宅に招待された。二人のお嬢さんがホテルまで迎えにきてくれた。地下鉄に乗ってみた。地下鉄はフランス製でゴムタイヤで走るため実に静かだ。駅の標示も全部絵でわかるようにくふうされている。車内にも同じ絵があり合せて行けばだれでも目的地まで行くことができる。

おふくろの味を知る

自分の家に帰ってきたような気分。言葉の心配もなく、服装も自由、テーブルには、イカ刺、カツオ、マグロなど日本料理がずらり、味の素からワサビまであった。先生も奥さんも大の民謡好き。熊本出身の先生はバカでかい声で唄う。軍歌と民謡の連発、今夜はやはり松本氏の出番だ。日の丸の扇子片手に大原みこし唄の大合唱。近所のメキシコ人もさぞやビックリしたことだろう。

多く無視される。これが本当の馬耳東風？馬にチップをはずむわけにも行かず、結局十五分位でもとの所にもどってきてしまった。馬にのせられたお粗末の巻。

お世話くださった方たちにお礼

この日記を終るにあたって私たちに最高の夢を与えてくださった東先生、名ガイドのトミー永松さん、終始われわれのお世話をしてくれた大和航空の赤沼さん、旅行のきっかけを作ってくくださった井桁先生、その他多くの関係者の皆さんに心からお礼を申しあげます。



華麗な独立式典

日の暮れを待ってパリッとしたスーツに着がえ出発。特別の車両許可証も頂いてあったが、歩いて中央政庁（独立祭会場）まで行くことにした。途中、中国料理店にゆうべのお札を兼ねて東先生ご一家をご招待して夕食をとる。

中央政庁前の大広場はすでに何十万人という人で埋まっている。宮殿のぐるりを警備の軍隊がびっしりととりまいてる。銃を持った軍隊の中央に敷かれたまっ赤なじゆうたんを踏んで、長い廊下を通りやつと会場に着く。実に華かな会場だ。床にはびっしりと松葉が敷きつめられ野外の感じを出している。イスはきょうのために作られた皮張りのもの、大ステージを中心に思い思いに座っている。特にご婦人たちが美しい。この日のために装をこらしてくるのだからその華麗なこと。まさしく百花繚乱だ。

ぐるりととりかこむ廻廊には百人以上のコックが整列しその前に並べられたテーブルには最高の料理と果物が山と積まれている。午後十一時ちょうどに大統領が自由の鐘を打ちならすことになってい

る。この鐘は一八一〇（イ）九月十五日午後十一時、北部のドロレス村で神父イダルゴが同志と共に打ちならし、独立闘争の第一声をあげた記念すべきものだ。

十一時ちょうど、国歌演奏のうちを大統領はバルコニーに立ち史実に即して鐘を打ちならす。そして広場を埋めつくした大観衆とともに「ビバー・メヒコ」（メキシコ万歳）を何度もくりかえす。その瞬間広場の仕掛け花火と祝砲がいつせいに火をふく。ものすごい音響があたりを圧する。国民の祝福を受け終った大統領は中央階段からおりて各国代表の祝福を受ける。

いよいよ盛大なパーティーが始まる。中央ステージでは一流の踊り子達の民族舞ようが始まる。ここに参加している紳士、淑女は実によく食べる。われわれも山海の珍味をたつぷりごちそうになって外に出る。

粉と切紙の大襲来

これから大活劇が始まる。メキシコではこの夜に限り無礼講。昔から生玉子をぶつけ合う習慣がある。いまは玉子のカラの中に五色の切紙や粉を入れてぶつけあう。

それも顔と頭が的になる。広場に出たとたんに、その洗礼にあう。純白のスーツ、貴婦人につけてもらったまっ赤なバラを胸に意気揚々と歩き出したところで集中攻撃を受ける。顔は早くも粉でまっ白頭に粉玉子をのせてゴリゴリとこすられる。

大通りに出ると、もつとすさまじい。先生は歓迎のつもりだろうが、こちらは大迷惑。こんなひどい目に逢つてもそのつど「ビバー・メヒコ」のあいさつを交す。「ハボンノハボンノ（日本）」と大歓迎の大襲撃、全員ベロンベロンのめちゃくちゃ。やつとの思いでホテルに逃げ帰り、おたがいの姿を明るい場所のみたときは抱腹絶倒、いまでもあの姿を思い出すとおかしさがこみあげてくる。

ふろにとびこんだらパンツの中央まで粉と切紙が入っていた。こうして長かったメキシコの最後の夜がふけていった。

雄大なデズ ニールランド

9月16日

十時からの軍隊のパレードが始

まると空港へ閉鎖される。そのため起床は六時。早朝にもかかわらず東先生が空港で見送ってくれた。ほんとうにお世話になりました。十一時半ロサンゼルス着。一時デズニールランドに向かう。施設は

文明社会の価値観を反省

9月17日

十二時半の飛行機が故障のため

な物をみて歩く。ぜいたくな旅でもあった。楽しく有意義な旅だった。

ロスを離陸したのが、三時半だった。空港待合室は九割までが日本人観光客。アカプルコ、メキシコとあまり日本人に会わないですんだのは幸せだった。二十時間も昼間が続き三度も昼食を食べて、小さな丸窓がやつと暗くなつたころ房総半島の灯がみえた。さすがにホッとした。正直なものだ。早く家に帰りたいとしみじみ思う。だがこの羽田の税関のいやらしさよ。じれつたさよ。要領の悪さよ。

ふだんおあいすることもできない方々と握手をし、会談し、立入ることのできない場所に列席し、「ビバー・メヒコ」を連呼したあの感激は参加者全員の胸にいつまでも燃え続けるだろう。長い歴史と豊富な農産物、地下資源、海産資源に裏つけられた発展途上国メキシコ、三上君が、いみじくもいつた。「指導者いかなでは世界の大国になりうるだろう」と。私もそう信じて疑わない。

ここを通る人はだれでもそう思うにちがいない。成田が開港したらこのようなことのないようにしてもらいたい。心配された税関も無事にパス、深夜わが家にたどりつく。十日間が一カ月にも感じる長い旅だった。一日一点ずつ貴重

あの放し飼いの豚と遊んでいたインディオの素足の子どもたち。機械文明にとつぷりとつかつた、われわれの生活と、自給自足のインディオ達とどちらが豊かなのだろうか。彼等は無言の中でそれを教えてくれた。

く ら し の し お り



寒くなるこれからは鍋料理のシーズンです。肉や魚貝類、野菜を入れてグツグツ煮ながら食べることは、体が温まるだけでなく、一家だんらんので盛りあ

鍋料理や漬け物で、ネギやホウレン草、だいこん、サンマやサバ、アジ、イワシなど秋の味覚を十分に味わって、寒い冬に備えましょう。

とりちりなべ(5人前)

〔材料〕
若どり骨つきのおつ切り200g
酒(しょうが汁) 少量

豆腐 3丁
こんぶだし——ふきんでふいて砂を払い分量の水に1時間つけてから火にかけ弱火で煮て味をだす。
薬味……大根、赤とうがらし、ねぎ(あかつき)、のり
ゆず
つけじょうゆ……しょうゆ、みりん、かつお節

げます。

また漬け物の季節でもあります。たくあんや白菜なら家庭でも作れます。おふくろさんに野菜と塩の比率、準備するもの、漬け込む手順などきいて、わが家の漬け物をつくってみませんか。多少、塩の強弱があっても少量ならすぐ食べてしまえるし同じ容器でやり直せます。

〔作り方〕

- ①とり肉は酒またはしょうが汁をふりかけておく
- ②豆腐は大きめのやつこ切りにする。
- ③こんぶ
- ④鍋にだしを入れて中央につけしょうゆを入れた器をおき、回りにとり肉を入れ火が通って柔らかになったら豆腐を入れて弱火で煮る。のりは焼いてもむか細かく切る。ゆずは輪切りまたは三日月切りとする。



◇おめでた

九月 男4 女6 計10
区 出生児 性別 保護者
浜 米本裕子 女 正行
久保 石井清路 男 潤一

新町 石井有美 女 立成
〃 府川陽一郎 男 汎志
六軒町山川晃広 男 和夫
〃 駒井久代 女 克彦
岩和田山口文 女 勉
〃 吉野真由美 女 明
上布施西川滋夫 男 俊夫
〃 吉野史絵 女 征雄

◆おくやみ
九月 男4 女1 計5
区 死亡者 年齢 死亡日
須賀 三矢豊吉 71 9月21日
久保 田邊よし 99 9月7日
〃 鶴岡喜作 69 9月30日
六軒町加藤操 66 9月10日
岩和田岩井和敏 27 9月19日

「青色申告」で節税を

あなたのお知りあいに、商売をされている方や、貸地、貸家なさっている方はいませんか。もしありましたら、ちよつと声をかけてください。「青色申告やっていますか」。

青色申告……「売上げはわかるが、仕入がどうも」「修繕費はいくらだつけ」なんて調子では、正しい申告はできませんし、もちろん、事業の姿もつかんでいないことになりまますから、経営も不安です。このような状態から、一日も早く抜け出すために、青色申告による記帳をおすすめします。
「青色申告の記帳は面倒だから」「数字はどうも苦手」としりご

みされている方、あなただつて、売掛けや買掛けは記録してあるでしょうか。それに、毎日の現金の出入りを記録する「現金出納帳」経費を項目ごとに記録し、どの経費がどれだけかかっているか一目でわかる「経費帳」そして、建物や車両などの減価償却費の計算に必要な「固定資産台帳」を新たに加えてほしいのです。もちろん、それだけの苦労をしていたら、用です。それなりの特典は用意してあります。青色申告控除、専従者給与、赤字の繰越し、繰戻し、貸倒引当金、価格変動準備金など、そして、なにより大切なことは、帳簿をつけることにより事

業の本当の姿を知ることができ経営の合理化にも役立つことです。もし、帳簿のつけ方や決算の仕方が分からないときは、税務署に青色申告の指導や相談を専門にしている担当者がおりますので、いつでも気軽ににご相談ください。あなたのお知りあいの方にも、すすめてみてください。町では、「青色申告宣言の町」として、青色申告の普及に努めております。

人口	
(9月末現在)	
前月比	△74
男 3,928	△43
女 4,484	△3
男女計 8,412	
世帯数 2,270	1

発行所 千葉県御宿町役場

発行責任者 岩井敏夫

編集者 加藤長